

Tokorozawa

ウォーキング

寿町・実科高等 女学校跡



所沢小学校正門前の寿町公園には、「町立実科高等女学校跡」という石碑が建っています。ここにはかつて所沢実科高等女学校がありました。校舎として使われていた建物が昭和62年までありましたが、取り壊されて公園に整備されました。校舎だった建物は、図書館や教育センターとして使われた時期もあったので、ご記憶の方も多いのではないのでしょうか。



旧実科高等女学校校舎（昭和62年）

所沢実科高等女学校は、大正5年に開校しました。当初は、所沢小学校にあった御大典記念館が校舎として使われました。御大典記念館は、大正天皇の即位を記念して建てられた建物です。その建物が昭和7年に現在公園となっている場所に移され、女学校も独立したかたちとなりました。同18年には高等女学校となり、同23年所沢商業学校・所沢工業学校とともに合併して所沢高校になりました。同27年に久米に移転したため、小学校の教室として使われることになりました。その後、市の図書館となったのは同39年で、その際、かなりの改修がおこなわれました。

ところで、所沢実科高等女学校は所沢で最初の女子教育の学校として設立されました。募集人員は50人で、小学校の高等科を卒業した女子を対象とし、修学年限は2年でした。

埼玉県内では3校目でしたが、各地で実科高等女学校が設立された背景として、第一次世界大戦後の世界的な女子の社会進出のための職業教育ということがあったといえます。しかしながら、実態は裁縫や家事を中心としたカリキュラムが半分以上を占め、良妻賢母型の女子教育でした。

『所沢高校百周年記念誌』に収録されている実科高等女学校卒業生の「思い出の記」には、厳しい時代の中にあっても生き生きと学校生活を過ごした思い出が語られています。

また、「風紀は厳しかったけれど、生徒数や職員数が少なかったのでお互いによく知り合うことができ、ひとつの問題についても先生を中心に話し合うことができた」とあって、こじんまりとした学校であったことがうかがえます。



寿町公園の石碑

みんなの広場



▲森林インストラクターの丁寧な説明で、狭山丘陵の自然を満喫した「自然観察会」。8月18日(出)／狭山丘陵いきものふれあいの里



▲市内で作られた野菜がたっぷりの「駅前朝市」。採りたての新鮮なものをばかりでした。8月11日(出)／所沢駅東口



▲貴重なコレクションが多数展示されていました。「なつかしのプリキおもちゃビコーキ大集合」。7月20日(金)～9月2日(日)／所沢航空発祥記念館

街かどズームイン ZOOM IN

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶今回のテーマは「ロボット」▶ロボットというと、少し前まではSFの世界や漫画の中だけの話でしたが、いよいよ現実味を帯びてきました▶これからは一家に1台という時代が来るかもしれません▶私たちのよきパートナーになってほしいですね▶締め切りは9月17日(月)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

に歌い終え、盛大な拍手に送られて舞台を後にした。審査の結果、団体優勝と個人賞の2つの栄冠を手にするこたができた。

何を着てみようか
中富南・平岡 みさ子
私は東京生まれの東京育ち。ところが、主人は生まれてから一度も所沢を出たことがないという。そして、実家は兼業農家。結婚してからも、家庭菜園を一人でやっていた。

私はまったく手伝わす、そして月日は流れ、我が家の隣が市農場になるという。主人に相談のうえ申し込むと、1,000円に借りることができた。

なんだかワクワクしてきた。草を取り、土をシャベルでやわらかくして石灰をまく、とても楽しい。何を育てようかと胸がドキドキする。こんな楽しいことを主人は一人でもやっていたなんて、20年以上たつてから初めて思いました。



▲詰め将棋や次の一手など、真剣に講師の話を聞く未来の棋士たち。「夏休みこども将棋教室」。8月11日(出)／文化会館

新しい浴衣
南永井・井上 みどり
今年も近くの神社の境内で盆踊りが行われました。日中のさびしい暑さを忘れさせてくれるようなさわやかな夜風に浴衣の裾が舞ります。太鼓の音といっしょに、さあ踊りましょう。

生涯一度の大舞台
山口・山本 映
昭和30年代、ラジオ番組として人気があった職場対抗歌合戦「金の歌・銀の歌」に、会社代表として出場する機会を得た。

会場となった広島中央公会堂は、超満員の観客でむせ返っていた。番組のプログラムも予定通り進行し、いよいよ私の出番が回ってきた。万雷の拍手に迎えられて、晴れの舞台に立った。

司会者から、曲目「山嶺の道」の紹介が終わると、オーケストラのイントロがスタートした。緊張する瞬間である。心はときめき、胸の鼓動が高鳴り、そして弾んだ。

私は、生演奏をバックに歌う喜びをじみじみ味わいながら熱唱した。私の歌声が静まり返った会場に響き渡った。3番の歌詞まで無難

過保護な妹
並木・横須賀 みどり
通勤の途中、偶然に出会った1本の桜の木。屋敷を問わず、365日警備の人に見守られていた。超過保護な、桜なのですか。

私が3年間も思いを寄せているなんて露ほども思わず、自由奔放に枝を張り巡らせています。

久しぶりに、私の心に「ときめき」という4文字を運んでくれました。

来年の春、辺り一面が薄桃色に染まるとき、私もきっとほめ言葉めながらスケッチブックを手にしていることだと思います。

トンネルが消える
久米・小林 寿栄雄
昭和18年、私は現在の北朝鮮の都市で小学校に入学しました。

父が鉱山で働いていた関係で、母と6人の子供もたは所沢市に住み、夏と冬の休みに父の所へ行くのが毎年の決まりなので、私はこの長い汽車の旅にいつも胸を躍らせたものでした。

30年以上の兄が、「夜はトンネルが消えるんだ」と教えてくれた。

「そんな不思議な、と幼い私は恐ろしく押し付けて何時間も暗い外を見るが、家の明かりも街灯も無い当時の山村は文字通り漆黒の間で、トンネルが無い。

何とか消える瞬間を見つけたと胸を躍らせたあのころの幼い好奇心は、今でも私をときめかせてくれる大切な思い出です。

そんな秘密を伝えてくれた兄もすでに遺腹を過ぎていますが、すっかり忘れられたかもしれない。

はがきから
若狭・井上 美恵子
6年前から投稿を始めた。この欄に初めて掲載される少し前に連絡をもらった。2回目も連絡がないのが当然、没「だ」と思いついていたら、思わぬ「だ」と思いついた。自分が見るまでわからないというところ。

歳を重ねるとついで、自分のことでときめくことが少なくなっていく。掲載の日が近くなると、テンションが高まって、必、沸騰点に達するのは、それ自分の前に瞬間だ。

度胸のない私は、紙面を左から右へずらして自分の文章を探す。あれば思わず「ママン」って叫びて酔ってしまう。

あはれ、貴女の中のあたりのまでできてなければ、没「だ」なので、それは冷静になって、没「だ」でして「？」とこぼして「おめい」。

私は一枚のはがきをのときめきの心をもち、自作自演をこらしている。

ご覧いただき
所沢レポート
9月26日(木) 9時55分～10時55分
9月28日(土) 10時55分～11時55分
10月1日(月) 10時55分～11時55分
『エコエネ共和国21』
インターネット
チャンネル
● 番組JUMP
9月26日(木) 9時55分～10時55分
2時～午後9時55分～10時55分

広報テレビ番組
● 譲ります ▶ 大人用机▶ テレビ台▶ カラオケセット (分) セットアップ付 ▶ 衣類乾燥機 (電気) ▶ デジタルCSチューナー▶ セット▶ マット▶ シェーダー▶ エアロバイク▶ 電子レンジ▶ デジレコーダー▶ キヤスター付▶ 食器棚▶ スリッパ
● 求めます ▶ 2段ベッド▶ ライオン▶ プスック▶ 大人用自転車 (25インチ以上) ▶ 子供用自転車 (22～24インチ) ▶ キーホルド▶ アコースティック▶
受付方法 ▶ 電話による先着順で紹介いたします。毎月5日からの受け付けになります。利用者には所沢市民に限ります。
休館日 ▶ 月曜日・祝休日
申し込み・問い合わせ ▶ リサイクルふれあい館 (電話) 0429-000000

リサイクルふれあい館 不用品ガイド



テーマ "ときめく心"

誰でもエッセイ
今年も近くの神社の境内で盆踊りが行われました。日中のさびしい暑さを忘れさせてくれるようなさわやかな夜風に浴衣の裾が舞ります。太鼓の音といっしょに、さあ踊りましょう。

過保護な妹
並木・横須賀 みどり
通勤の途中、偶然に出会った1本の桜の木。屋敷を問わず、365日警備の人に見守られていた。超過保護な、桜なのですか。

トンネルが消える
久米・小林 寿栄雄
昭和18年、私は現在の北朝鮮の都市で小学校に入学しました。

はがきから
若狭・井上 美恵子
6年前から投稿を始めた。この欄に初めて掲載される少し前に連絡をもらった。2回目も連絡がないのが当然、没「だ」と思いついていたら、思わぬ「だ」と思いついた。自分が見るまでわからないというところ。

次回テーマは「ロボット」

根性と忍耐力がないとできません

はつらつとこ 野老っ子



りえ 理愛さん (神米金在住)

今回の野老っ子は、皆さんご存知の正義のヒーローや怪獣などに扮して戦っている太田理愛さんです。太田さんは、子どものころから「戦隊もの」のテレビ番組が好きで、アクションスターにあこがれていました。そして、市内の高校を卒業後、アクションができる役者になりたいと思いました。「何気なく見ていたアルバイト情報誌に今の会社の求人広告があり、着ぐるみでの仕事にも興味があったので応募したのが、この世界に入るきっかけです。」入社すると、すぐにきついな特訓が待っていました。「いっしょに入ったアルバイト仲間の大抵の人が、音を上げて辞めていってしまいました。」しかし、太田さんは身長146cmの小柄ながら、持ち前の根性・我慢強さで続けることができました。それから早5年。今年、その努力が認められ、かの有名な怪獣映画に出演が決まりました。1954年にこの人気シリーズが始まって以来、初めて女性が怪獣(主役の敵役)の中に入って戦います。自ら選んだ仕事とはいえ、苦労話がつきません。着ぐるみに入っていると、特に夏の暑さは大変です。

「スタジオでの撮影は、空調を切ってしまう、照明の熱でもすごい暑さです。屋外の仕事の場合、まだ風があるので助かります。中からは視界も悪く、よく見えなるときなどは、床に線を引いてもらい、それを見ながら相手に向かって進むんです。」苦労だけではありません。屋外でのイベントに行っ仕事をする場合、お客さんの生の反響を肌で感じられるため、勉強になり、やりがいを感じるそうです。「今は「スーツアクトレス」なんて言われていますが、本当は役者ですから、自分の顔を出して芝居したい。いろいろなオーディションを受けて、自分のやりたいことに挑戦していきます。」と語る太田さん。取材を終え、「図書館に寄ってきます」と言って、立ち去るときさわやかな笑顔が印象的でした。